

令和2年5月11日

部活動に想う



今年のインターハイが中止になったという報道があったのは4月26日のことでした。

放送で実施した始業式でも話しましたが、縁あって本校を含め取手市内の高校3校に勤務することになりました。最初の藤代紫水高校では、全国大会常連

のハンドボール部のコートが校長室からよく見えました。ハンドボールは全くの素人ですが、毎日彼らの練習を見ていて気付いたことがあります。シュート練習の場面でしたが、何度も何度も同じ動作を執拗に繰り返していたのです。「凡事徹底」、そんな言葉が思い浮かびました。監督のT先生にその話をしてみると、笑いながら「やつら下手ですから・・・」。

前任の取手一高では、茨城国体優勝の自転車競技部。最後はどうしても自分との戦いになります。「赤子のように育てるんです」との監督のO先生の言葉が重かった。

そんなことを思い起こすにつけ、本校でも様々な部活動で、その一点を目標にこれまで地道に努力を重ねてこられた生徒の皆さん（特に3年生）に思いを馳せると、その悔しさ（多分そんな簡単な言葉では言い表せないのでしょうけれど）はいかばかりかと、胸が痛みます。いろいろな場面で様々な葛藤があり、そして今もその矛先をどこに向けてよいものかと、落としどころの無い思いに日々苛まれているというのが本音でしょうか。

藤代紫水高校ハンドボール部の試合でこんなことがありました。紫水のハンドボールは強固なデフェンスからの速攻が特徴で、ラフプレーになることは少ないのですが、それでも相手チームの強硬なデフェンスに倒されることがあります。ある試合で、M君が倒されても倒されても立ち上がり前に進む姿が脳裏に焼きついて離れません。先ほど、彼らのシュート練習の話題を記しましたが、M君のこの突進も、愚直な基礎練習の日々の積み重ね、言い換えればよく言われるように「そこに至る過程」があったこそそのパフォーマンスと言えるのではないのでしょうか。

ところで、部活動については、新しく改訂された学習指導要領においても引き続き、「（前略）責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するもの」として「学校教育の一環」としての位置づけをされています。

今回のインターハイ中止はとても残念なことです。これまで皆さんが積み重ねてきた時の重み、様々な経験は決して無駄になるどころか、今後の皆さんを後押ししてくれる、いわば「M君の突進」のようなものになるはずです。自分にとってのこれまでの部活動についての諸々を一度整理し、「責任感、連帯感の涵養」に繋がられるよう、今後の行く末を力強く睨んでいてもらいたいものです。